

「地方の活性化とユビキタスネット社会に関する懇談会」
第1回会合 議事要旨

1 日時

平成18年11月27日（月）10:00～12:00

2 場所

総務省低層棟1階 共用会議室4

3 出席者

(1) 構成員（五十音順、敬称略）

会田和子、植村伴次郎、大山永昭、清原慶子、小谷昌、近藤則子、島田範正、清水康敬、滝久雄、田中和則（和才博美構成員代理）、坪田知己、露木順一、永吉一郎、秦野一憲、町田幸一（飯泉嘉門構成員代理）、村木美貴

(2) オブザーバ

文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省

(3) 総務省

田村副大臣、谷口大臣政務官、寺崎政策統括官、今林地域通信振興課長、植松地方情報化推進室長、中田地域通信振興課課長補佐

4 議事概要

(1) 開会

(2) 総務省挨拶（田村副大臣、谷口大臣政務官、寺崎政策統括官）

(3) 構成員紹介

(4) 開催要綱（案）について

資料1-1について、事務局より説明がなされ、了承された。

(5) 座長の選出及び座長代理の指名について

座長には清水構成員が選出された。また、清水座長より、座長代理として大山構成員が指名された。

(6) 懇談会の公開（案）について

資料1-2について、事務局より懇談会の公開について説明がなされ、了承された。

(7) 議題

○地方の活性化とユビキタスネット社会に関する取組について

資料1－3について、事務局より発表の後、質疑応答を行った。

【質疑応答】

- 地方では様々な産業が興されているが、生産側の技術やノウハウが失われつつある。国からの支援も必要。
- 地域の違いを越えて共通化できる課題がある一方、地域課題の解決のための手法は多様化・多元化すべき。
- 地域には多くの人材がいるということを実感している。人材とは現役世代に限らず、定年退職後のセカンドキャリアを築いている人々も含まれる。産業活性化、都市農業の推進等を行なう際、ICTの利活用は人々の自己実現に貢献できると考えている。
- 「user-created」という新たな視点が必要。

○「ユビキタス時代の地域情報化とは」(坪田構成員)

資料1－4について坪田構成員からの発表の後、質疑応答を行った。

【質疑応答】

- つながりの情報社会を実現させることが必要。物流、商流は充実しているが、情報流はより充実させることが必要。現状は生産者と消費者が分断されている状況であり、固体識別によるサービスの充実が必要。
- ユビキタスネット社会では、監視されていることを監視されている側が知っていることが必要。知らない間に監視されているのは公平ではない。ルール作りが必要。
- せっかく便利で簡単な情報端末が開発されても、その存在や使い方を教えてくれる人(子供や孫)がおらず、お金があっても使えない高齢者が今後増えると予想される。ICTを活用して、地域の人と人との信頼の絆を育てることが地方の活性化の基本と思う。
- 岩手県川井村では、Lモードを使って孤独死を防ぐ取組を行っている。支えてくれる人とシステムの両方が必要。
- ブロードバンドが普及していない地域がまだ残っているが、なぜ普及していないのか、できないのかを検討する必要がある。

(8) 今後の検討の進め方等について

資料1－5について事務局より懇談会の今後の検討の進め方等についての説明がなされ、了承された。

(9) 次回の日程について

12月14日(木)10:00～12:00を予定

(10) 閉会

以上